



小さな金具で 扉の安全を支える 丁番専門メーカー

株式会社ニシムラ

誰でも簡単に調整できる 「三次元調整丁番」

住宅や家具の開き戸を支え、スムーズな開閉の要となる建具、「蝶番（ちようがつがい）」。形状が蝶に似ていることからその名が付いたとも言われており、海外でも「バタフライヒンジ」の名で呼ばれている。だが、業界内では「丁」の文字を使い「丁番（ちようばん）」と呼んでいる。

昭和10年、西村金属工業所として創業したニシムラ。汎用丁番から各種用途に合わせたオーダーメイドの丁番まで、一貫して丁番を作り続けてきた。当初は家具用丁番を手がけていたが、昭和50年代に住宅用丁番の製作に移行。現在では、住宅用丁番で6割以上のシェアを持つ。

そのニシムラの製品の中でも6割を占めているのが「三次元調整丁番」だ。ビスを回すだけで上下・左右・前後と、3方向の調整が可能であり、素人でも簡単に扉と戸枠のずれを調整できる。また、「ピボットヒンジ」は、扉の上下だけに付けて開閉を支える丁番。外側から見えないくため、美観を損ねないというメリットを持つ。

ドイツ製をはるかに超えた 「隠し丁番」

同社が誇るアイテムは約3000種類。中でも現在、最も力を入れているのが「隠し丁番」だ。

通常、丁番は扉の外側に付けられ、一つの軸を中心に開閉する仕組みになっている。しかし、隠し丁番は扉の内側（戸枠と接する面）に付けられ、二つの軸を中心に2段階で開閉し、扉を閉じると戸枠に備え付けられた収納部分に丁番自体が収まる構造になっている。

隠し丁番の主流はドイツ製だが、鋳物製のため価格が一つで約2万円もする。そこで同社は、プレス製法によってコストを抑え、一つで5〜6千円という価格を実現。加えて、平均30〜40mmの幅を持つドイツ製品に対し、21mmという薄さを実現した。

キーワードは「安全」

隠し丁番の最大のメリットは安全性にある。まず、構造上、扉と戸枠の間に隙間ができないため指詰めが起らない。そして、扉の外側に付いていないため、丁番を壊して侵入することが不可能なのだ。

「キーワードは『安全』です」と西村公一社長は話す。丁番は、万が一壊れた場合に事故となる可能性がある。そのためニシムラではすべての製品に対し、何種類もの品質検査を行っている。最低20万回におよぶ開閉テストにはじまり、引張り強度試験機による強度テスト、塩水

噴霧試験による耐候性テスト、沸騰水や薬品による耐久性テストまで行っている。

西村社長は、「住宅の着工件数が減っていく中、今後は丁番だけでなく、ドア周りの金物と、ポスト、エントランスパネル等も自社ブランド『アーチ』として売り出していきたい」と展望を語る。

どれほど新しい製品を手がけようとも、ニシムラの「常に安全性を重視した製品作り」が変わることはない。

主な事業内容

〈本社〉ドア・用丁番、ドア・関連商品・製造・販売等
〈中国大連工場〉枠調整金具・調整ラッチ・スプリングユニット等の製造・販売等



西村公一さん
代表取締役社長

株式会社ニシムラ

住所／〒581-0862
大阪府八尾市千塚2-162
創業／昭和10年4月
設立／昭和25年2月
資本金／3,240万円
従業員／105名（平成21年1月現在）
TEL／072-941-8681
FAX／072-941-4606

ISO 9001

<http://www.nishimura-arch.co.jp/>